

## 具体的な検討項目のまとめ

○ 家庭での取組み1. 段ボールコンポストの普及方法について

→ 次年度モデル事業において、各家庭での生ごみ堆肥化を普及させていく  
うえで公募方法等、どのように取り組むべきか。

- ・広報おだわらで必要な紙面をさいて取組みの内容を大々的にアピールし、参加募集をつのる。
- ・広報に記事を出すときは、生ごみ堆肥化に対する市長の言葉も加えた方が思いも伝わり良いのではないかとと思われる。
- ・ゴミダスや自治会回覧等利用できるものはすべて活用する。  
(タウンニュースやFMおだわらに宣伝を依頼する。)

2. 生ごみ講習会の開催について

→ 自家処理の取組みでは、各家庭において異物混入等のない堆肥化が求められる  
など、生ごみの堆肥化についてよく理解していただいた上でモデル事業に参加し  
ていただくことが必要ではないか。

- ・講習会で実際に段ボールコンポストを見て・触れる事が大切である。開催時に  
参加者へ段ボールコンポストとアンケートをその場で配付する。
- ・どうしても講習会に参加できない方の対応はどうか検討が必要である。
- ・講習会には知識豊富なアドバイザーの協力が不可欠である。

3. 段ボールコンポスト（現物補助）の配付および時期について

→ 各種堆肥化方法がある中で、行政側として現物補助を予定している段ボ  
ールコンポストの配布方法及び時期の検討。

- ・基本的に講習会の開催時に段ボールコンポストを配付するが、市の窓口でも配付  
することができないか検討が必要である。
- ・段ボールコンポストは発酵基材の交換が必要であるが、交換時期に継続させ  
ていくことが難しいので交換基材（1年分）も合わせた形で配付した方が良い  
と思われる。

#### 4. 生ごみはいつてません袋の配布および時期について

→ 生ごみ堆肥化モデル事業の参加者へのメリットとして、「生ごみ入っていない袋（仮称）」の配付を予定しているが、どのタイミングでどのくらい配布するのが良いか。

- ・ 取り組みをアピールできるように、目立つような袋にしたほうが良い。
- ・ 配付方法については、どのような形が適切か検討が必要である。
- ・ 配付枚数に関しては、1世帯あたり1年分（50枚）が適当のように思われる。

#### 5. 一次処理後の堆肥利用方法について

→ 一次処理後の堆肥については、各家庭での利用を基本とするが、活用先がない人については、どのように処理してもらうか。

- ・ 基本的に、一次発酵堆肥は自家利用をしていただく。
- ・ 量的には少ないと思われるので、どうしても家庭での利用が難しい方は、講習会の開催時での引き取りも可能だと思われる。
- ・ 資源ごみ回収の（⑧蛍光灯など）日に、一次処理堆肥を入れた袋に堆肥と書いて出す。
- ・ 今まで電動式生ごみ処理器を購入した方に、一次処理堆肥をご自分で利用しない方は資源ごみ（⑧蛍光灯など）の日に出せることを電話で知らせる。

### ○地域での取り組み

#### 1. 学校近隣自治会へのモデル事業依頼方法について

→ 地域での取り組みについては、小学校（報徳・久野）の既存設備を用いて実証実験を行うため、対象地域は、学校近隣地域になるが、自治会へはどのように働きかけるか。

- ・ 地域での取り組みは対象世帯を減らしても、報徳小学校周辺に限定し取り組んだ方が良いと思われる。（30～40世帯でも良いのではないか。）
- ・ 自治会へは行政から環境美化推進委員さんを含め、働きかけていく方が良いと思われる。

#### 2. モデル地区の説明会について

→ モデル事業の円滑な実施を進める上で、モデル地区内の市民が一体となり積極的な参加を促すために、説明会等の開催をしていくことが必要ではないか。

- ・ 学校周辺地域という限定されたところでの説明会の開催が必要になる。

### 3. 排出の方法について

→ 生ごみの排出で利用する道具としては、抗酸化バケツや密閉式バケツの利用が考えられるが、保管のしやすさや悪臭等の影響面からどのような方法が適切と考えるか。

- ・ 完熟堆肥とのサンド方式を実践することで、臭気の問題も抑えられると想定されるので、抗酸化バケツの利用をしなくても密閉式バケツで代用可能なのではないかとと思われる。
- ・ ステーションで回収する際に、臭気が発生することも考えられるので周辺への配慮が必要である。

### 4. 排出頻度

→ 排出頻度については、現状の可燃ごみの排出回数と同様の週2回であると考えているが、適切であるか。

- ・ 可燃ごみの排出回数とあわせ週2回で考えたほうが良いと思われる。
- ・ 将来のステーション方式を考慮すると、回数は増やさないほうが良いと思われる。

### 5. 二次処理の方法と活用場所について

→ 地域での取組みにおいて、一次処理後の堆肥を米ぬかと混ぜ合わせて成分の調整を行い、実証実験を行う予定である。運搬の面から排出場所（小学校）から近隣の場所が理想的であるが、どのような仕組みで実証実験を行うのか。

- ・ 米ぬかと成分調整し、2～3ヶ月熟成させ完熟堆肥の製造を目指す。
- ・ 一次発酵堆肥は繊維質が足りないようであるので、チップ材との混合が適しているかもしれない。
- ・ 成分調整材については、予算内で工夫して取り組んでいくべきである。
- ・ 実験場所としては、報徳農場を利用して取り組んでいく。

### 6. その他

- ・ 生ごみ堆肥化の登録参加者には、堆肥を利用した花木等を配付するなどの取り組みをしながら普及を図る事が効果的なのではないかとと思われる。